

『米欧回覧実記』 ポンペイ挿絵補遺

—— ジョルジョ・ゾンマーのステレオ写真 ——

藤 沢 桜 子

Addenda to the Illustrations of Pompeii in *Beio Kairan Jikki*:
Giorgio Sommer's Stereoviews

Sakurako FUJISAWA

はじめに

『米欧回覧実記』（以下、『実記』）は、明治4－6（1871－1873）年に欧米諸国を視察した、岩倉具視を特命全権大使とする政府派遣の使節団、いわゆる「岩倉使節団」の報告書である¹。使節団一員で大使随行を務めた漢学者の久米邦武によって編修・執筆され、帰国から5年後の明治11年に全100巻、5篇5冊という構成で公刊された²。

この『実記』には、311点の挿絵銅版画が含まれている³。「例言」によれば、それらの銅版画は「すべて各地や各都市の注目すべき風景や建物などであり、文明諸国の一部を国民に見せたいという意図⁴」によって掲載された。日本の版刻者が使節団の将来した資料をもとに制作しており、ほとんどの銅版画は上下2段組みとなっている（図1）。

筆者は2010年の拙稿で、南イタリアの古代ローマ都市ポンペイ遺跡の挿絵銅版画（『実記』第77巻「那不児府ノ記」）について考察し、挿絵「同〔ポンペイ〕古死屍」（図1下、以下「古死屍」。〔 〕は筆者による補足）の原図がドイツ出身の写真家で、ナポリを拠点に活動していたジョルジョ・ゾンマー Giorgio Sommer（1834－1914）のステレオ写真であることを指摘した⁵。ゾンマーは、ポンペイ遺跡を撮影した写真家の一人として知られている⁶。

ポンペイは後79年にヴェズヴィオ山の大噴火で埋没した後、約17世紀の時を経て1748年に遺跡の発掘が開始されると、1738年にすでに発掘が開始されていた近隣都市ヘルクラネウム（現エルコラーノ）遺跡とともに大きな反響を呼び、古代ブームを巻き起こした。グランドツアーでイタリア

本稿は、平成28年度群馬県立女子大学県民公開講座「岩倉使節団の古代ローマ遺跡見学」（6月13日）の一部を発展させたものである。

1 久米邦武編 1878『特命全権大使 米欧回覧実記』博文社。田中彰校注 1977-82や水澤周訳注 2008が現在出版されている。

2 『実記』については田中・高田 1993、また久米邦武については高田 2007などがある。

3 挿絵銅版画については、おもに久米美術館編 2006を参照。『実記』には銅版画以外に18点の地図や挿絵が含まれている。

4 「皆各地各都ノ、囑目スヘキ風景建築等ニテ、文明諸国ノ一斑ヲ国人ニ観覧セシメント欲スル意ニ出ツ」。田中校注 1977、第1冊、26頁。

5 拙稿2010。

6 2015年には、ゾンマーによる写真のみで構成されたポンペイ遺跡写真展が開催されている。Schörle 2015。

を旅行する芸術家や貴族青年たちが訪れる場所となり、使節団見学時の1873年にはすでに観光名所となっていた⁷。

ステレオ写真は、左右のアングルがわずかに異なった2枚の写真を並べて横長の台紙に貼りあわせた2枚一組の写真で、ステレオビューアまたはステレオスコープというレンズ付きの道具を使って眺めると、2枚の写真が重なりあって立体的に見える仕組みになっていた。当時、観光地で広く売られていた土産品で、使節団副使の一人であった山口尚芳も、欧州土産としてステレオ写真を持ち帰ったようであり、出身地の佐賀県武雄市歴史資料館に保管されている。

使節団将来の現存資料の中に「古死屍」の写真は確認されていないものの、前稿では、挿絵内の左帯に記された番号や欧文キャプションが原図特定の根拠となった。『実記』挿絵のなかで原図のキャプションまで掲載された作例は、「古死屍」とその上段「『ポンペイ』二掘出セル古画」（図1上、以下、「古画」）の2点のみであり、これらは実記挿絵の中でも特異な存在である。「古画」は挿絵右に付されたキャプションのとおり、ポンペイ出土の壁画である。前稿では、この挿絵の原図もゾンマーのステレオ写真であろうと推察しながらも、資料不足のため特定しきれなかったが、最近になって新たな資料を確認できたため、本稿では「古画」の原図特定をあらためて試みるとともに、「古死屍」についても補足しておきたい。

1. 「古画」の壁画

「古画」は、豎琴奏者のブロンズ製アポロ像が出土したことにより「豎琴弾きの家 Casa del Citarista」と称される邸宅（I 4, 5.25）の一室、部屋20を飾っていた壁画（図2）の版画である⁸。挿絵内の文字は、イタリア語によるキャプション“Marte e[V]enere. Pompei”（「マルスとウェヌス。ポンペイ」、[]は筆者による補足）の不完全な写字であるが、画面中央の抱擁する2人の人物が軍神マルスと愛と美の女神ウェヌス（ヴィーナス）であると伝えている⁹。

『実記』の本文には2神の恋愛場面に直接言及している箇所はみられず、ポンペイの邸宅の壁画が「人物鳥獣」で彩られていることや、「花街」（娼館）には「春画」が描かれていることが述べられている程度である¹⁰。マルスとウェヌスの恋愛場面はポンペイで複数例が発見されているが、「古画」には図像学的に一致しない点があり、現在では、中央2人の人物特定については、他に「ウェヌスとアドニス」、またトロイア戦争と関連して「ウェヌスとアンキセス」「デイドとアエネアス」といった解釈がみられる¹¹。

現在、「古画」の神話画は原位置ではなく、ナポリ国立考古学博物館に所蔵されている¹²。「豎琴

7 久米が所持していた1872年出版の旅行案内書にも解説がある。Appleton's 1872: 625-626. アップルトンと同様に当時のヨーロッパで知られていたベデガーの旅行案内書はより詳細な解説と遺跡地図を掲載しており（Baedeker 1873: 113-137）、簡潔ではあるが「豎琴弾きの家」も紹介している（*id.*, 136, 地図上の番号89）。岩倉使節団のイタリア視察については、近年の展示資料に京都外国語大学ほか2016がある。

8 「豎琴弾きの家」部屋（またはオエクス [客室]）20、北壁中央、前1世紀後半～後1世紀半頃。Elia 1937: 8-10, pl. III; de Vos 1990: 149-151, 153-154, figs. 56-58, 61; Hoffmann 2014: 136-37, cat. no. 34など。

9 拙稿 2010: (86)-(88)。

10 田中校注 1980: 332-334。

11 Bergmann 2014: 78-79; Hoffmann 2014: 136-137, cat. no. 34。

12 ナポリ博、所蔵番号112282、高さ2.53m、幅1.5m。

弾きの家」は1853-61年、1868年、1872年、1929年に発掘され、発掘日誌などが刊行されているものの¹³、この神話画や博物館に所蔵される同室の壁画が壁体から剥がされた正確な日付は不明である¹⁴。1863年4月にポンペイ遺跡を訪れた考古学者ブルン H. Brunn は、在ローマの考古学通信研究所（ドイツ考古学研究所の前身）が発行する発掘情報誌の同年5-6月号で、この神話画について報告しているため¹⁵、その発見は1861年もしくはその年付近であったと思われる¹⁶。1861-64年に発掘監督官フィオレッリ G. Fiorelli が制作させた、当時の遺跡の保存状態を忠実に再現した模型では、「竖琴弾きの家」の壁にこの神話画はなく、模型制作時にはすでに剥がされていたようである¹⁷。また、ヘルビヒ W. Helbig は1868年に出版したヴェズヴィオ山周辺の壁画に関する研究書のなかで、この神話画について「破壊された」と記しているが¹⁸、それは壁体から剥がされた神話画がポンペイ遺跡で保管されていたためであるという¹⁹。

その5年後の1873年に使節団がナポリの博物館を見学した際に、この神話画を目にしたかどうかは定かでない²⁰。同年のある旅行案内書は、ポンペイなどから出土した壁画のコレクションの展示準備が最近になって完了したと告げているが、案内書に挙げられている壁画リストのなかにこの神話画はない²¹。

2. 「古画」の原図

前稿では「古画」（図1上、図3）と同じ壁画を撮影したゾンマーのステレオ写真を確認できず、またゾンマーの通販用1891年版写真カタログ（ミシガン大学図書館蔵）にも「古画」と同番号「352」のステレオ写真がなく²²、原図の特定には至らなかった。しかし、最近、ゾンマーの同番号によるステレオ写真（図4）を確認することができた²³。

ステレオ写真の台紙の左には“POMPEI”、右には“SOMMER & BEHLES. NAPOLI E ROMA”と印刷されている。ゾンマーは1857年にイタリアに渡り、1860年末にはローマからナポリに活動拠点を移していたが、同じくドイツ出身でローマを活動拠点とする写真家エドモンド（またはエトモンド）・ペーレス Edmond (or Edmund) Behles (1841-1921) とスタジオを共同経営していた²⁴。ペー

13 Eschebach 1993: 27. de Vos 1990: 118は、発掘期間を1853-68年としている。

14 Sampaolo 2014: 45.

15 Brunn 1863: 101-102.

16 同研究所による発掘情報誌では、別の報告者2名が1861年と1862年にそれぞれポンペイ出土の壁画を若干紹介している程度であるのに対し、Brunn 1863: 93-106は、すでに報告された作例も含め、壁画に関するまとまった情報を提供している。

17 Sampaolo 2014: 42.

18 Helbig 1868: 83, cat.no. 323.

19 Sampaolo 2014: 45.

20 Sampaolo 2014: 45は、この神話画や同室の他の神話画は、発見後数十年の間にナポリ博物館に移されたと述べている。

21 Baedeker 1873: 63-64. 博物館の壁画コレクションはその後増加しており、1901-1903年に再整理されている（Sampaolo 2009: 13）。

22 Sommer 1891. 現在ではフィレンツェ美術史研究所がウェブサイトでデジタル画像を公開している。

23 Pompeii in Pictures: <http://www.pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R1/1%2004%2025%20p5.htm>. 写真のより鮮明な画像データをダン夫妻からいただいた。

24 Fanelli 2007: 19.

レスと連名の台紙は、1857年から2人の共同経営が解消される1866年頃までに年代づけられている²⁵。台紙裏面には、購入者と思しき人物がポンペイを訪れた日付「1867年7月22日」を書き入れており²⁶、1867年にはポンペイでゾンマー&ベーレスのステレオ写真が販売されていたようである。

このステレオ写真は『実記』挿絵の「古画」と同内容であり、キャプションの *Venere* の *V* の活字が薄れているという共通点もみられるが、キャプション・タイトルは同一ではない。“No. 352. *Marte e Venere. Fresco*”（「No. 352. マルスとウェヌス。フレスコ画」）となっており、末尾の“*Fresco*”は「古画」には見られず、「古画」の場合、主題名の後は“*Pompei*”で終わっている。

ゾンマーのステレオ写真は、土産品として欧米に広まって散在するか散逸し、現在では各地の美術館や個人の断片的なコレクションとなっている。写真原板はすでに失われており²⁷、また通販用写真カタログもあまり残存していない。ゾンマー写真の体系的な先行研究はあるものの、個々の写真を扱った詳細な研究は困難な状況にある。本稿掲載のステレオ写真は、挿絵「古画」のキャプションと完全に一致せず、両者では見えている壁面の範囲が多少異なるため、「古画」の原図と同一の写真であるとはいいがたい。しかしながら、写真番号などから総合的に判断すると、ゾンマーのステレオ写真が「古画」の原図であったことはほぼ確実である。

3. ゾンマーの写真カタログ

前節のステレオ写真と同様、新たに確認できたゾンマーの写真カタログは、1886年版（フィレンツェ美術史研究所蔵）と、出版年・出版地が明記されていないが1882年頃と推定されている版（同研究所蔵、以下、1882年頃版）である²⁸。ゾンマー研究において1886年版は基準をなすカタログで、この版で項目の枠組みが定着したとされる²⁹。1882年頃版には項目がなかった場所の写真が追加され、以前から掲載されていた場所の項にも増加がみられる。本稿では、使節団訪問の1873年より10年以上年代が下るが、出版年の確実な1886年版を底本とし、比較の際に他の版を参照することとする（表1）。

1886年版カタログ（図6）では、ステレオ写真「352番」は「ナポリ博物館 Museo di Napoli」の「オリジナルを撮影したポンペイとヘルクラネウムのフレスコ画 *Affreschi di Pompei e Ercolano dagli originali*」という項目のなかに掲載されている³⁰。「オリジナル」と明記されているのは、これ以外

25 Fanelli 2007: 44-45.

26 “Showing frescoe paintings in the House of Diomedes in the ruins of Pompeii / Visited June 22nd 1867.” 「ディオメデスの家」とあるが、実際は「竖琴弾きの家」である。裏面は、ダン夫妻より画像データをいただいで確認した。

27 Paoli 2008: 1311.

28 Sommer 1886; Sommer c. 1882. いずれもフィレンツェ美術史研究所ウェブサイト公開のデジタル画像で確認。1882年頃の推定は Fanelli 2007: 50, nota 46によるが、年代比定の根拠は示されていない。「ポンペイ Pompei」の項目には、「犬の押型1879年 [Impronta]d'un cane 1879」という主題があるため、出版年は少なくともこの型取り以降である。ゾンマーは岩倉使節団がポンペイを訪れたのと同年の1873年にもカタログを出版しているようであるが、Fanelli 2007: 49, nota 46によれば所在不明となっている。

29 Fanelli 2007: 31.

30 Sommer 1886: 18. 「壁画」の主題はアルファベット順に掲載されているため、写真番号は必ずしも昇順ではない。通販カタログによると、ステレオ写真は1ダース（12枚）で1セットとし、1セット4フランで販売していた（Sommer 1886: 56 「 」 価格表）。

に、「騎士ファウスト・ニコリーニの著作を撮影したフレスコ画 Affreschi presi dall' opera del cav. Fausto Nicolini」と区別するためであろう³¹。ニコリーニ（またはニッコリーニ Niccolini）（1812–1886）は建築家で、兄弟のフェリーチェ Felice とともに『図説ポンペイの住宅と記念物 *Le case ed i monumenti di Pompei disegnati e descritti*』（Napoli, 1854–1896）を出版している³²。オリジナル撮影の主題数は125あり、中判はすべての主題に、またアルバム判（*Album*）はほとんどの主題に番号が見られるのに対し、ステレオ写真はわずか11である³³。ステレオ写真は1891年版にも同項目があるもののサイズは中判とアルバム判のみで、ステレオ写真の欄自体がなくなっている³⁴。1882年頃とされるカタログ（図5）では「ナポリ博物館」の下位項目に「フレスコ画」はなく、ステレオ写真「352番」は「ポンペイ」の項目の下位項目「オリジナルを撮影した壁画 Affreschi preso (sic.) dagli originali」に分類されている³⁵。

『実記』挿絵「古画」と本稿掲載のステレオ写真「352番」におけるキャプション末尾の不一致（Pompei と Fresco）の問題を解決するには、さらなる資料が必要であるが挿絵制作の際に「古死屍」の挿絵内キャプションは、正確なイタリア語ではなかったにせよ、ステレオ写真のキャプションを忠実に再現しようとしている制作者側の意図がうかがわれるため、「古画」の場合もあえて改変したと考えるよりは、久米たちが原図として用いたのはキャプションが Pompei で終わる同番号のステレオ写真であったとするのが妥当であろう。実際、末尾が Pompei となっている例を次の「353番」のステレオ写真にみることができる（図7）³⁶。「マルスとウェヌス」の隣室（21）の壁を飾っていた神話画「パリスの審判」の写真で、現物は現在ナポリ国立考古学博物館に所蔵されている³⁷。ステレオ写真に付されたキャプションでは「No. 353 パリスの裁き、ポンペイ Giustizia di Paride Pompei」となっている。

「352番」（「マルスとウェヌス」）と「353番」（「パリスの審判」）の差異は台紙にもある。前者の台紙はゾンマーとベーレスの共同経営時代のものであるのに対し、後者の台紙はゾンマー単独経営時代で1867-1873年頃に年代比定されているものである³⁸。共同経営時代と単独経営時代でキャプションに変更があったという可能性も否定できないが、その次の「354番」のステレオ写真（図8）³⁹は、台紙は「353番」と同様でありながら、キャプション末尾は「353番」と同様に Fresco となっているため、単純な推察は困難である。「354番」は「シリクスの家」（VII 1, 25.47）エクセドラ[客室] 10、東壁中央に位置する神話画の写真である⁴⁰。鍛冶の神ウルカヌス（ヘファイストス）が海の女神テティスが息子アキレウスのために頼んでおいた武具を女神に見せている場面である。今回、これらのステレオ写真については、同主題で台紙の異なる別の例を確認することができなかった。

31 Sommer 1886: 30–31.

32 復刻版に De Caro 1997がある。

33 これ以外に「名刺判 Carte」もあるが、ステレオ写真と同様、番号が掲載されている主題の数は13と少ない。

34 Sommer 1891: 20–23. ステレオ写真と同様にカード判も掲載されていない。

35 Sommer c. 1882: 16 “Marta (sic.) e Venere”.

36 Pompeii in Pictures: <http://pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R1/1%2004%2025%20p6.htm>.

37 所蔵番号120033. de Vos 1990: 155–56, fig. 64; Hoffmann 2014: 142–143, cat. no. 37.

38 1867–1873年頃の年代比定は、Fanelli 2007: 44–45による。

39 Pompeii in Pictures: <http://www.pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R7/7%2001%2047%20p2.htm>.

40 壁画に関しては、Bragantini 1996: 275, 279, figs. 89, 95を参照。

表1 ステレオ写真352-354番の表記

番号	1886年版カタログ			写真・台紙			備 考
	項目	主題名	出土	キャプション	場所	スタジオ名および台紙年代	
352	MN	マルスとウェヌス Marte e Venere	Pompei	マルスとウェヌス。フレスコ画 Marte e Venere. Fresco (図4)	Pompei	SOMMER & BEHLES 1857-1866頃	「竖琴弾きの家」部屋20、北壁中央。遺跡で撮影。ナポリ博 inv. 112282.
353	MN	パリスの審判 Giudizio di Paride	Pompei	パリスの裁き、ポンペイ Giustizia di Paride Pompei (図7)	—	GIORGIO SOMMER 1867-1873頃	「竖琴弾きの家」部屋21、北壁中央。遺跡で撮影。ナポリ博 inv. 120033.
354	MN	テティスとウルカヌス Teti e Vulcano	Pompei	ウルカヌスとテティス。フレスコ画 Vulcano e Teti. Fresco (図8)	—	GIORGIO SOMMER 1867-1873頃	「シリクスの家」エクセドラ10、東壁中央。遺跡で撮影。現在も原位置。

「354番」の場合、1886年版カタログの主題表記と今回確認の写真のキャプションでは、登場人物の記載順序が逆転している。前者では「テティスとウルカヌス Teti e Vulcano」であるが、後者では「ウルカヌスとテティス Vulcano e Teti」となっている。しかし1882年頃版カタログの主題は写真と同様であり(図5)、カタログ表記と写真キャプションとに一致がみられる。カタログの比較からいえば、1882年頃から1886年の間に主題の見直しがあったようである。主題名はアルファベット順に記載されているため、TとVのどちらから開始されるかによって順序に影響が生じる。1882年頃版では、ひとつ前の主題が“Sacerdotessa di Venere”(「ウェヌスの女祭司」)で⁴¹、「354番」が壁画の最後であるため、順に変更はない。しかし、1886年版では壁画は「ポンペイ」から「ナポリ博物館」の下位項目「オリジナルを撮影したポンペイとヘルクラネウムのフレスコ画」に移動されたうえ、主題数も23から125と大幅に増加しているため、「女祭司」との間には13の主題が挿入され、“Teti e Vulcano”はリストの最後(“Venere”)から6番目に配置されている。

主題の見直しは「352番」と「353番」にもみられる。「352番」の場合、1882年頃版ではマルスは“Marta”(マルタ)と誤植されているが、1886年版では“Marte”(イタリア語でマルスのこと)に修正されている。「353番」の場合、用語が見直されており、1886年版では現在でもよく知られる主題名「パリスの審判 Giudizio di Paride」となっているが(図6)、1882年頃版では“Giudizio”ではなく“Giustizia”であった(図5)。1882年頃版では“Giudizio di Paride”はステレオ番号「367番」の主題名としてすでに記載があり、「353番」はその下に配置されている。しかし、「367番」については、ゾンマーの共同経営時代(1857-1866頃)の台紙のステレオ写真と、1873-1890年頃に年代比定される台紙のステレオ写真では⁴²、どちらもキャプションは“Giustizia di Paride”となっており、「353番」よりも早く、1882年頃版かそれ以前のカatalogで主題が見直されたとしても、写真自体のキャプションは修正されないまま使用されていた可能性もある⁴³。

41 ステレオ写真「360番」。「352番」(「マルスとウェヌス」)と同室で、南壁中央に位置していた。ナポリ博物館蔵、所蔵番号120034。神話画の主題については、現在「レダと白鳥」が定説である。de Vos 1990: 150-152, fig. 60; Hoffmann 2014: 140-141, cat. no. 36など。

42 2枚の写真画像はいずれも Pompeii in Pictures で確認 :<http://www.pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R8/8%2004%2004%20p4.htm>。「ポストゥミウス一族の家 Casa dei Postumii」(VIII 4, 4, 49) トリクリニウム(食堂) 33、南壁中央。Dickmann 1998: 514-515, fig. 112.

43 ステレオ写真「351番」も1882年頃版と1886年版の主題名が若干異なる。前者(図5)では“Ercole[u] briaco”(「酩酊のヘラクレス」)であるが、後者(図6)では“[u] briaco”は同義語の“ebbro”に変更されている。「351番」の写真画像は確認できなかったが、同列にある中判写真「1227番」はゾンマーに

「354番」については、カタログの内容にも実際の写真と異なる点がある。「352番」と「353番」は遺跡で撮影された写真であるが、被写体の壁画はいずれも博物館に運ばれており、1886年版でも「ナポリ博物館」の項（表1のMN）に分類されている。しかしながら、「354番」の壁画は博物館に運ばれることなく、現在も原位置にあるにもかかわらず、カタログでは「ポンペイ」の項ではなく「ナポリ博物館」の項に分類されている。前述のように、1891年版では、「ナポリ博物館」の項からステレオ写真は姿を消しており、「354番」は「ポンペイ」の項にもみられない。カタログの分類にも混乱としたものがある。

ゾンマーは1870年頃にステレオ写真や名刺サイズでの風景撮影を中止したが、その後も過去に撮影したものを長期にわたって使用していた⁴⁴。このようにゾンマーのステレオ写真については、版の異なるカタログのほか、同番号でアングルのわずかに異なる、場合によっては撮影時期も異なる写真や、同主題で番号の異なる写真、台紙時期の異なる同主題の写真が存在していた。

4. 別判の写真「マルスとウェヌス」

前稿では、壁画「マルスとウェヌス」のゾンマーによる写真の例として中判写真（ペンシルバニア大学蔵）をあげたが、その写真番号「1234番」は1891年版カタログに掲載されておらず、ステレオ写真「352番」とともにそれ以前のカタログとの照合を今後の課題としていた⁴⁵。本節では、『実記』挿絵の「古画」とは直接関連していないものの、1882年頃版、1886年版、1891年版のカタログと中判写真について触れておきたい。「1234番」中判写真は、本稿では番号とキャプションまで、つまり写真の下端も含まれているゲティ美術館蔵の例（図9）を掲載する⁴⁶。ペンシルバニア大学蔵とゲティ美術館蔵の写真では、上下左右の端の見える部分が多少異なっている。例えば、前者の右上や左下方に写っている壁面の損傷が後者では一部しか写っておらず、前者は後者よりもわずかに左上の範囲をとらえている。これはわずかな差異であり、光の具合からも同時期に撮影されたものであると思われるが、すでに指摘されているようにゾンマーの写真には同番号、同主題でありながら、類似のアングルで撮影された異なる写真がしばしば用いられている⁴⁷。

よるアルバム『ポンペイ Pompei』などにみられる（Fanelli 2012: 11など）。Miraglia *et al.* 1992: 128, 213–214. 「1227番」は、ステレオ写真「354番」（「ウルカヌスとテティス」）と同室で、北壁中央および東側と東壁北側を撮影した写真である。1882年頃版、1886年版ともに「351番」の下主題は同主題であるが、1882年頃版カタログでは、「351番」と同主題を示すハイフン「—」の後に“dettaglio”（「部分」）と記されている。ステレオ写真は「366番」であり、この番号の写真画像（Fanelli 2007のタイプ XII [1873–1890年頃] にあたる。画像は Pompeii in Pictures: <http://www.pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R7/7%2001%2047.htm> で確認）は、「1227番」と同室の北壁中央部分の神話画を撮影したものであった。少なくとも1882年頃版では、「351番」「366番」の主題はともに「シリクスの家」の同じ神話画を指しているのであり、「351番」と「366番」は同室の壁面とその部分の関係であるといえる。なお、「シリクスの家」と同主題ではほぼ同様の構図による壁画が「モンテネグロ王子の家」(VII 16 [Ins. Occ.], 10) からも発見されている（ナポリ博物館蔵、所蔵番号9000）。

44 Fanelli 2007: 20.

45 拙稿2010: (87)–(88), 図7, (93) 註20, (95) 註38.

46 ゲティ美術館、作品番号 84.XM.1386.10. 美術館 HP: <http://www.getty.edu/art/collection/objects/48344/sommer-behles-marte-e-venere-fresco-di-pompei-italian-about-1855-1865/>

47 Fanelli 2007: 29.

中判写真「1234番」は1882年頃版カタログ(図5)に掲載されており、ステレオ写真「352番」と同行であった。これで照合はできたのであるが、1886年版には「352番」の行にこの番号はなく、代わりに異なる番号の「11916番」が付されている。むしろ、中判写真の番号全体が振り直されているという表現のほうが適切である。1882年頃版では「ポンペイ」の項にあり、他のポンペイの写真とともに1200番台が付されていたこれらのフレスコ画(「1593番」を除く)は、1886年版に「ナポリ博物館」の「オリジナルを撮影したポンペイとヘルクラネウムのフレスコ画」の新しい項へ移動した際に1100番台の番号が新たに振られたようである⁴⁸。中判写真の番号は9200番台が圧倒的で、そのなかに1100番台がところどころ入り込んでいるように見える。9200番台が付されたものが新たに追加された中判写真であろう。中判写真の充実は1886年版の全般的な特徴となっており、「ナポリ博物館」のフレスコ画にもその特徴がみとめられる。

1886年版の「352番」と同行にある中判写真「11916番」は、書物の図版や挿図にとりあげられている例がある(図10)⁵⁰。掲載図版に写真番号は認められないが、挿図のキャプションにその番号が明示されている。「1234番」との大きな差異は画面下方にいる犬の頭の向きである。本来は首を伸ばして前方(画面の右方向)に鼻を向けているにもかかわらず、振り向いて背中の方(画面の左方向)に鼻を向けているようにネガに修正がほどこされている⁵¹。

5. 「古死屍」の原図写真

ポンペイ遺跡を訪れた使節団は、入口付近の集古館(「博物観」)に入り、石膏取りされた3体の遺骸を目にする⁵²。発掘中、火山灰の堆積層で発見された空洞に石膏を流し込むと、石膏が死者の失われた肉体や衣服の代わりとなって固まり、残っていた遺骨とともに石膏遺体となって掘り出される。集古館では、それらの遺骸が台の上で展示されていた。『実記』挿絵の「古死屍」(図1下、図11)は、そのうちの一体で、「丈夫ノ屍ニテ仰キ臥ス」と記述された男性の遺骸である。イタリア語のキャプション(やはり転記時の誤りがある)には「357番。1863年2月5日に発見された遺体の押型N° 357. Impronte umane trovate al 5 Feb.° 1863」とあり、この番号とキャプションがゾンマーのステレオ写真と一致したことが原図特定の根拠となった⁵³。「古死屍」は、集古館に移される前におかれていた邸宅遺構で撮影された写真を原図としている⁵⁴。

より保存状態の良い例を「最近」確認したため、本稿ではゲティ美術館が所蔵するステレオ写真を掲載する(図12)⁵⁵。前稿の写真はベレスとの共同経営時代の台紙であったが、本図の写

48 Fanelli 2007: 28によれば、付番の論理は明快ではなく、しばしば連番にならずに欠番となった番号が印刷された写真に見出されるという。

49 Fanelli 2007: 32.

50 Herrmann — Bruckmann 1904-1931: 145, fig. 45; Elia 1937: 8-9, pl. III.

51 Elia 1937: 8.

52 田中校注1980: 332.

53 詳細については、拙稿2010: (88)-(90)。

54 Dwyer 2010: 69は、これらの石膏遺体は1875年に集古館に移されたとするが、その場合、1873年に集古館で見たという『実記』の記述との間に齟齬が生じる。

55 ゲティ美術館蔵、作品番号 84.XC.979.8492. 美術館ウェブサイト: <http://www.getty.edu/art/collection/objects/81239/giorgio-sommer-impronte-umane-trovate-al-a-feb-1863-italian-february-1863/>

真は単独経営時代で1867-73年頃の台紙に貼られている⁵⁶。前稿掲載の写真と同様に、この写真も挿絵「古死屍」に再現された範囲と完全に一致するわけではない。向かって左側の写真では右端の椅子の笠木がわずかに見えているのに対し、右側の写真ではほとんど見えており、隙間をあけて上端を山型にしたデザインも鮮明である。挿絵「古死屍」の場合、笠木に隙間はなく、また山型でもないため、銅版画制作の際に簡素化したのかもしれないが、椅子は写真よりもわずかに正面を向いているようである。とはいえ、人物の位置や床にできた影は、同日、同時時間帯の撮影であることを示している。

6. 「古死屍」の石膏遺体

1863年2月5日に「発見」された「古死屍」の石膏遺体は、人間の遺骸の石膏取りに成功した第一号であり、1860年に発掘監督官となったフィオレッリの大きな功績のひとつとなった⁵⁷。フィオレッリは遺跡を区画分けし、層位学的な発掘を行って、科学的な考古学を使命としており、石膏取りも新しい考古学の成果であった。彼は1863年2月12日付の『ナポリ新聞 *Giornale di Napoli*』でこの成功を報告し、「これからの考古学は、大理石像やブロンズ像ではなく、古代人の実際の身体を通して遂行されていくのである」と述べ、いわゆる美術品の発見を目的としてきた従来の考古学との決別を高らかに宣言している⁵⁸。

デスマスクなど死者や生者の石膏取りは古代から知られている技法であり、16世紀の美術家ヴァザーリがヴェロッキオの彫刻制作について伝えているように、ルネサンス時代には人体から直接石膏取りをして、美術品の制作や研究に利用していた⁵⁹。また19世紀のヨーロッパ美術界では、古典彫刻を複製した石膏像のデッサンも行われていたため、石膏の利用自体が新しかったわけではない。フィオレッリの石膏取りは、科学的な考古学として、古代人の遺骸再現に応用した点において画期的であった。

1863年の考古学情報誌で「古画」を報告したブルンは、同号でその年の成果である石膏遺体にもページを割いている⁶⁰。そのなかで「古死屍」の男性とともに掘り出された女性を例にあげ、「まさに甥 [小プリニウス] の報告のように、大プリニウスが死去したのと同じ姿勢で死んでいる女性を目にするのは感動的である⁶¹」とその興奮を伝えている。

『実記』執筆者の久米は、「古死屍」の男性に続いて、母娘とおぼしき2人の石膏遺体にも言及

56 台紙の年代については、Fanelli 2007: 44—45の分類による。

57 「古死屍」とともに3体の石膏遺体が掘り出されている。1863年2月12日『ナポリ新聞 *Giornale di Napoli*』に空洞発見から石膏遺体の取出しまでを報告している。記事はOsanna 2016: 144の再録（記事の一部）を参照。Dwyer 2010は、ボンベイ遺跡発掘におけるフィオレッリ以前の石膏取りや、19世紀末までの石膏遺体についてまとめている。

58 Dwyer 2010: 73. 新聞記事のこの部分はOsanna 2016に含まれておらず、本文の引用箇所はドワイヤーによる英訳の邦訳である。

59 ヴァザーリ 1989: 236-238（「ヴェルロッキオ」）；Dwyer 2010: 1. 古代から現代までの石膏像の歴史については、おもにFrederiksen & Marchand 2010を参照。

60 Brunn 1863: 88-90.

61 *id.*: 89. 小プリニウスの報告は、Plin. *Ep.* 6. 16, 20. 國原訳 1999: 231-236, 239-244（「叔父の最期」「ウェスウィウス火山の噴火」）。

し、最後に「一視シテ憫然ナリ」（「見るからに哀れである」）と感想を添えている⁶²。発見当時の考古学者フィオレリの使命感や考古美術界の反応とは対極的な、死者に対する心情的な視点である。その65年後、第2次世界大戦下の1943年にポンペイ遺跡は空爆を受け、集古館にあった「古死屍」の石膏遺体は、他の石膏遺体とともに破壊された⁶³。『実記』挿絵の「古死屍」は、残された写真とともに、再び失われたポンペイ人の姿を現在に伝える新たな役割をも担うこととなったのである。

おわりに

『実記』挿絵の「古画」「古死屍」は、数ある挿絵のうち、原図のキャプションまでをも版刻した特異な例である。その特異さゆえに、原図が現存していない、あるいは少なくとも所在不明であるという状況においても、いずれの挿絵もゾンマーのステレオ写真が原図であることを明らかにできた。このような形での原図特定が可能であったのは、原板というオリジナルを幾度も利用しながら複製を生み出していく、写真のもつ本質的な特徴によるものでもある。

ゾンマーによる写真は、先述のように原板が失われており、印刷された写真が断片的に現存している程度である。その写真にしても、たとえ同番号、同タイトルであっても、撮影あるいは印刷の範囲は同一ではなく、さらに写真台紙、つまり印刷時期も異なるといった状態である。『実記』挿絵銅版画を制作する際におけるキャプション転記の誤りにみられるように、挿絵が原図をどこまで精確に再現しているかという疑問も残されたままである。しかし、ここでは完璧な再現かどうかを問題視することよりも、これらの挿絵がステレオ写真という当時の流行を反映している、時代の産物であることに留意しておきたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、Pompeii in Pictures.com のジャッキーとボブ・ダン Jackie and Bob Dunn 夫妻から、ゾンマーによるステレオ写真掲載の許諾をいただくとともに、高精細な画像データもお送りいただいた。この場を借りて、お二人と写真所有者のリック・パウアー Rick Bauer 氏に感謝の意を表します。

図版一覧

- 図1 『米欧回覧実記』挿絵、ポンペイ出土「古画」「古死屍」。久米1878: 372-373。
- 図2 壁画《マルスとウェヌス》「竖琴弾きの家」部屋20、北壁中央。前1世紀後半～後1世紀半頃。国立ナポリ考古学博物館、所蔵番号。112282. Sampaolo & Hoffmann 2014: 137, cat.no. 34.
©2014 Bucerius Kunst Forum, Hamburg, Hirmer Verlag GmbH, München, und die Autoren.
- 図3 「古画」。久米1878: 372-373(上)。
- 図4 ステレオ写真「352番 マルスとウェヌス。フレスコ画」（ゾンマー&ベーレス）。
Photo courtesy of Rick Bauer. ©Jackie and Bob Dunn [www.pompeiiinpictures.com](http://pompeiiinpictures.com).
URL : <http://pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R1/1%2004%2025%20p5.htm>.
- 図5 ゾンマー1882年頃版カタログ p.16（部分）。Kunsthistorisches Institut in Florenz.
- 図6 ゾンマー1886年版写真カタログ p.18（部分）。Kunsthistorisches Institut in Florenz.
- 図7 ステレオ写真「353番 パリスの審判」（ジョルジョ・ゾンマー）。

62 田中校注1980: 332.

63 Dwyer 2010: 69.

- Photo courtesy of Rick Bauer. ©Jackie and Bob Dunn www.pompeiiinpictures.com.
URL: <http://pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R1/1%2004%2025%20p6.htm>.
- 図8 ステレオ写真「354番 ウルカヌスとテティス。フレスコ画」(ジョルジョ・ゾンマー)。
Photo courtesy of Rick Bauer. ©Jackie and Bob Dunn www.pompeiiinpictures.com.
URL: <http://www.pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/R7/7%2001%2047%20p2.htm>.
- 図9 ゾンマー、中判写真「1234番 マルスとウェヌス。ポンペイのフレスコ画」。
©The Paul Getty Museum. Object No. 84.XM.1386.10.
URL: <http://www.getty.edu/art/collection/objects/48344/sommer-behles-marte-e-venere-fresco-di-pompei-italian-about-1855-1865/>.
- 図10 ゾンマー、中判写真「11916番 マルスとウェヌス」。Herrmann-Bruckmann 1904-1931: fig. 40.
- 図11 「古死屍」。久米1878: 372-373(下)。
- 図12 ステレオ写真「357番 1863年2月5日に発見された遺体の押型」。
©The Paul Getty Museum. Object No. 84.XC.979.8492.
URL: <http://www.getty.edu/art/collection/objects/81239/giorgio-sommer-impronte-umane-trovate-al-a-feb-1863-italian-february-1863/>.

参考文献一覧

- Appleton's (1872) = *Appleton's European Guide Book, Illustrated* (5th ed., London, New York).
- Baedeker, K. (1873) *Italy. Handbook for Travellers III. Southern Italy, Sicily* (4th ed., Coblenz and Leipsic).
- Bergmann, B. (2014) "Blick und Betrachter. Das Bildprogramm der Casa del Citarista," in Sampaolo & Hoffmann, 74-85.
- Bragantini, I. (1996) "VII 1, 25.47 Casa di Sirico," in *PPM*, VI: 228-353.
- Brunn, H. (1863) "Scavi di Pompei," *Bullettino dell'Istituto di Corrispondenza Archeologica*: 86-107.
- De Caro, S. (ed.) (1997) *Le case e i monumenti di Pompei nell'opera di Fausto e Felice Niccolini* (Novara).
- de Vos, M. (1990) "I 4, 5.25 Casa del Citarista" in *PPM*, I: 118-177.
- Dickmann, J.-A. (1999) "VIII 4, 4.49 Casa di Postumi e i suoi annessi," in *PPM*, VIII: 451-517.
- Dwyer, E. (2010) *Pompeii's Living Statues* (Ann Arbor).
- Elia, O. (1937) *Le pitture della "Casa del Citarista"* (Roma).
- Eschebach, L. (1993) *Gebäudeverzeichnis und Stadtplan der antiken Stadt Pompeji* (Köln, Weimar, Wien).
- Fanelli, G. (2007) *L' Italia virata all'oro. Attraverso le fotografie di Giorgio Sommer* (Firenze).
- (2012) *Addenda a Giorgio Sommer* (Paris).
- Frederiksen, R., Marchand, E. (eds.) (2010) *Plaster Casts: Making, Collecting and Displaying from Classical Antiquity* (Berlin).
- Herrmann, P., Bruckmann, F. (1904-1931) *Denkmäler der Malerei des Altertums* (München).
- Helbig, W. (1868) *Die Wandgemälde der vom Vesuv verschütteten Städte Campanien* (Leipzig).
- Hoffmann, A. (2014) "Die Casa del Citarista," in Sampaolo & Hoffmann, 94-177.
- Miraglia et al. (eds.) (1992) *Giorgio Sommer in Italien. Fotografien 1857-1888* (Heidelberg).
- Osanna, M. (2016) "'Rapiti alla morte': i primi calchi delle vittime di Pompei realizzati da Giuseppe Fiorelli," in Osanna et al. (eds.) *Pompeii e l'Europa. Atti del convegno* (Milano) 144-161.
- Paoli, S. (2008) "Sommer, Giorgio (1834-1914)," in J. Hannavy (ed.) *Encyclopedia of Nineteenth-Century Photography* (London) 1310-1311.
- PPM = Baldassarre, I. (ed.) (1990-2003) *Pompeii. Pitture e mosaici I-XI* (Roma).
- Sampaolo, V. (2009) "La collezione degli affreschi del museo di Napoli," in I. Bragantini & V. Sampaolo (eds.) *La pittura pompeiana* (Verona).
- (2014) "Die Casa del Citarista. Ausgrabung und Erfassung der Funde," in Sampaolo & Hoffmann: 42-51.
- Sampaolo, V. & Hoffmann, A., (eds.) (2014) *Götter, Mythen, Menschen. Pompeji* (Hamburg).

- Schörle, K. (2015) *Pompéi en images. Giorgio Sommer* (Mougins).
- Sommer, Giorgio (s.d. [1882 circa]) *Catalogo di fotografie d'Italia e Malta* (s.l.). Kunsthistorisches Institut in Florenz.
- (1886) *Catalogo di fotografie d'Italia, Malta e ferrovie del Gottardo* (Napoli). Kunsthistorisches Institut in Florenz.
- G. Sommer & Figlio (1891) *Catalogo di Fotografie* (Napoli). The University of Michigan, Ann Arbor.
- ヴァザーリ、ジョルジョ (1989) 『ルネサンス彫刻家列伝』 森田義之監訳、白水社。
- 京都外国語大学、イタリア東方学研究所、久米美術館 (2016) 『近代日本のイタリア発見—岩倉使節団の記録から—』 京都外国語大学。
- 久米邦武編 (1878) 『特命全権大使 米欧回覧実記』 博文社。
- 久米美術館編 (2006) 『銅鑄にみる文明のフォルム—『米欧回覧実記』 挿絵銅版画とその時代展』 資料集』 久米美術館。
- 國原吉之助訳 (1999) 『プリニウス書簡集』 講談社学術文庫。
- 高田誠二 (2007) 『久米邦武—史学の眼鏡で浮世の景を』 ミネルヴァ書房。
- 田中彰校注 (1977-82) 『米欧回覧実記』 1-5 冊、岩波文庫。同 (1980) 第4冊にイタリア編が含まれる。
- 田中彰、高田誠二編著 (1993) 『「米欧回覧実記」の学際的研究』 北海道大学図書刊行会。
- 藤沢桜子 (2010) 『「米欧回覧実記」に描かれたポンペイ—挿絵銅版画をめぐって—』 『群馬県立女子大学紀要』 31: (83)-(96)。
- 水澤周訳注 (2005、普及版2008) 『現代語訳 米欧回覧実記』 1-5 冊、慶応大学出版会。

参考ウェブサイト

Pompeii in Pictures: <http://pompeiiinpictures.com/pompeiiinpictures/index.htm>.

The Paul Getty Museum: <http://www.getty.edu/museum/>.

(いずれも2016. 10. 1 接続。)

『米欧回覧実記』 ポンペイ挿絵補遺（藤沢） 図版

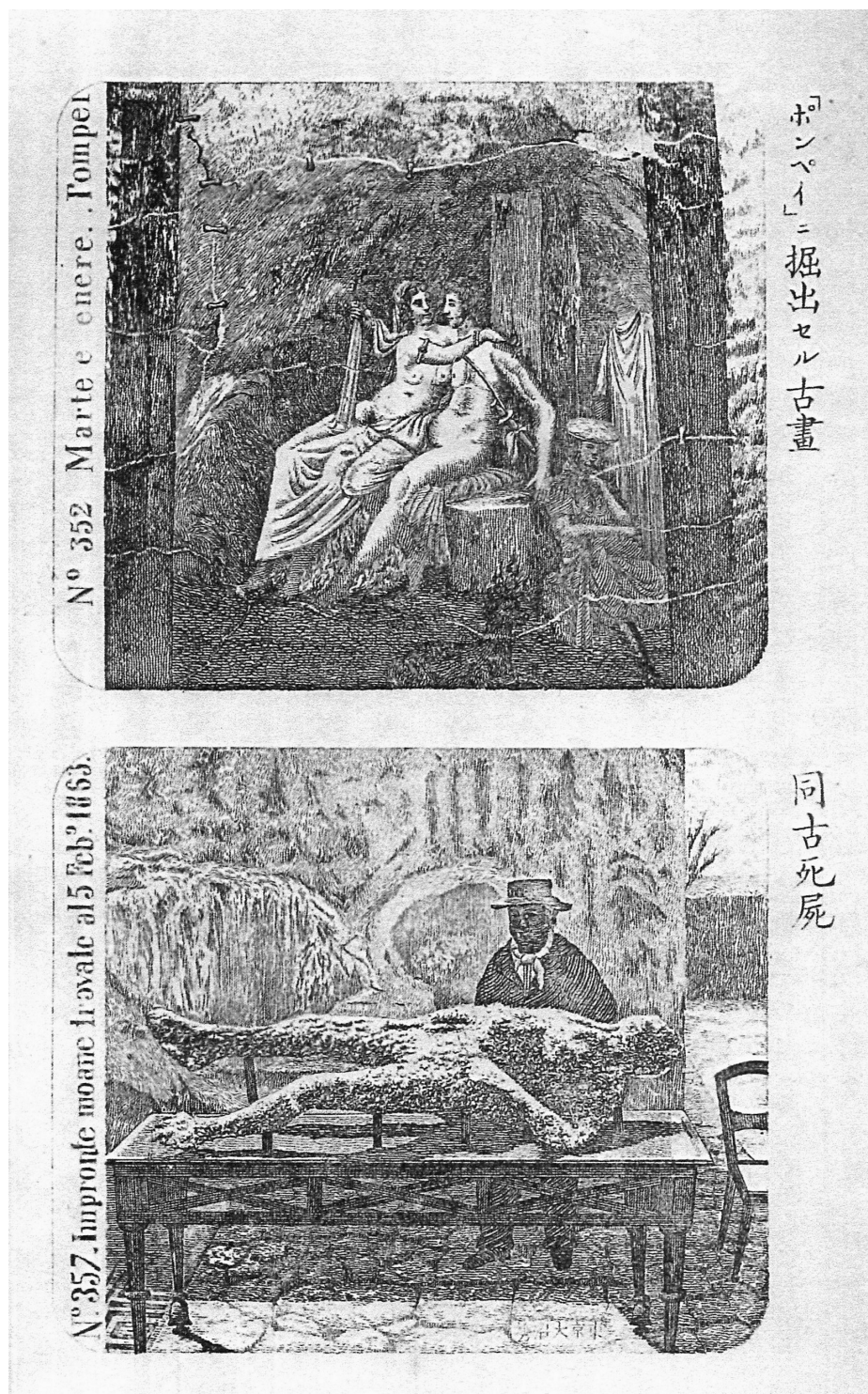


図1 『米欧回覧実記』挿絵、ポンペイ出土「古画」「古死屍」



図2 壁画《マルスとウェヌス》「竝琴弾きの家」部屋20、北壁中央



図3 「古画」



図4 ステレオ写真「352番 マルスとウェヌス。フレスコ画」(ゾンマー&ベーレス)
Photo courtesy of Rick Bauer ©Jackie and Bob Dunn www.pompeiiinpictures.com

Grande.	Mezzano.	Album.	Stereosc.	Carte.	Affreschi preso dagli Originali.
4128	1227		351	2335	— Ercole briaco.
	1229	5344	366	2337	— — dettaglio.
	1593				— Ercole e Telefo.
	1246				— Fauno suonante.
	1231	5339	367	2339	— Giudizio di Paride.
	1230		353	2338	— Giustizia di Paride.
	1248		374	2342	— Leda.
	1234		352		— Marta e Venere.
	1228			2336	— Nettuno e Apollo in Troja.
	1285	5373			— Orfeo.
	1239		360	2344	— Sacerdotessa di Venere.
	1226		354	2334	— Vulcano e Teti.

図5 ゾンマー、1882年頃版カタログ p.16 (部分)

Grande.	Mezzano.	Album.	Stereosc.	Carte.		
11915			353	2338	Giudizio di Paride	Pompei
11914	5339		367	2339	—	—
9283	6383				Giudizio di Salomone	—
9255	6355				Io condotto in Egitto	—
9278	6378				Latone e le figlie di Niobe	Ercolano
11905			374	2342	Leda	Pompei
11916			352		Marte e Venere	—

図6 ゾンマー、1886年版写真カタログ p.18 (部分)



図7 ステレオ写真「353番 パリスの審判」(ジョルジョ・ゾンマー)

Photo courtesy of Rick Bauer ©Jackie and Bob Dunn www.pompeiiinpictures.com.

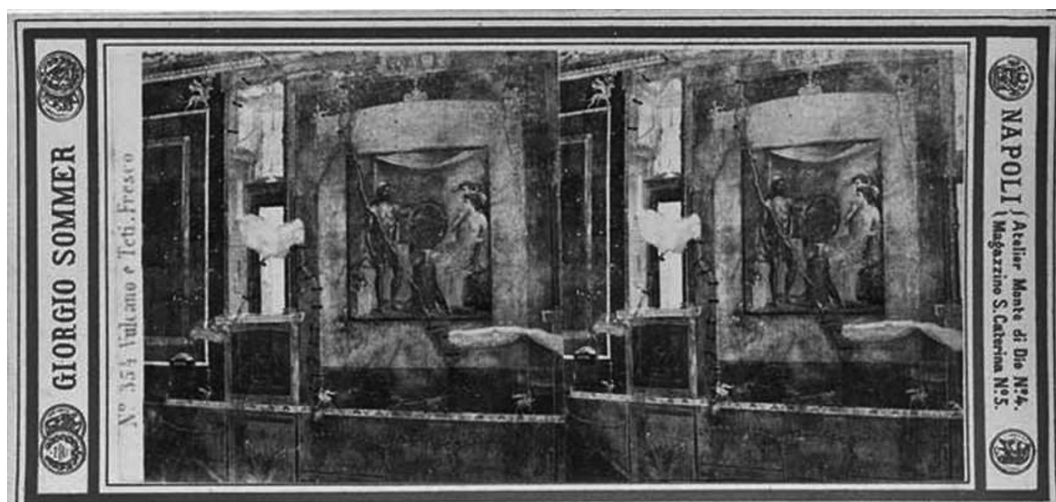


図8 ステレオ写真「354番 ウルカヌスとテティス。フレスコ画」(ジョルジョ・ゾンマー)
Photo courtesy of Rick Bauer ©Jackie and Bob Dunn www.pompeiiinpictures.com.



図9 ゾンマー、中判写真「1234番 マルスとウェヌス。ポンペイのフレスコ画」
©The Paul Getty Museum.

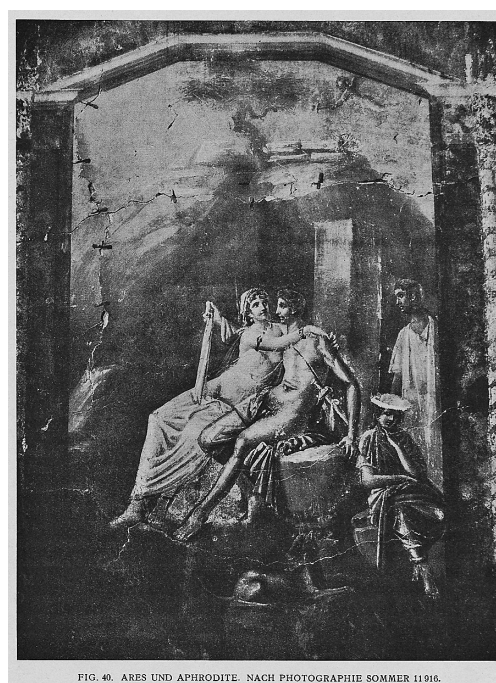


図10 ゾンマー、中判写真「11916番 マルスとウェヌス」

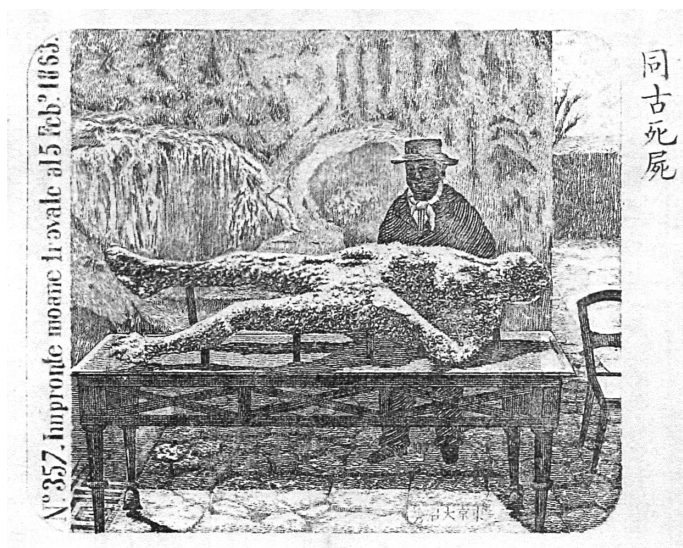


図11 「古死屍」



図12 ステレオ写真「357番 1863年2月5日に発見された遺体の押型」

©The Paul Getty Museum